

第1回草加市みんなでまちづくり自治基本条例

市民検証委員会 会議録

1 開催日時

令和6年3月19日(火) 午後3時から午後5時まで

2 開催場所

草加市役所第二庁舎4B会議室

3 出席者の氏名

(1) 委員 【9名】 後藤 純 座長、青柳 伊佐雄 副座長、上原 美香 委員、岡村 圭子 委員、齋藤 幸子 委員、関根 共子 委員、蓮沼 清光 委員、村上 昌巳 委員、谷古宇 隆一 委員

(2) 事務局 自治文化部 山中部長、芝田副部長

みんなでまちづくり課 藤倉課長、山岸課長補佐、田沼主査、水内主事

市民活動センター 間宮所長

4 会議の議題

1. 座長・副座長の選出について

2. 草加市みんなでまちづくり自治基本条例の検証について

3. その他

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者数

0人

7 議事録署名人

上原委員、岡村委員

8 審議の概要

【事務局】	それでは、第1回草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会を開催いたします。 はじめに、資料の確認をいたします。 本日、委員の皆様にお配りしている資料は 資料：草加市みんなでまちづくり自治基本条例の検証内容・今後のスケジュールについて 参考資料1：草加市みんなでまちづくり自治基本条例 参考資料2：草加市みんなでまちづくり自治基本条例に定めるまちづくりの参画手続に関する規則
--------------	--

	<p>参考資料3：草加市みんなでまちづくり自治基本条例 市民検証委員会 検証報告 参考資料4：草加市みんなでまちづくり自治基本条例 運用方針 参考資料5：草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会設置要綱 参考資料6：第四次草加市総合振興計画 概要版 以上6種類です。</p> <p>次に、座長・副座長の選出をさせていただきたいと思います。草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会設置要綱 第5条により座長・副座長は委員の互選により決めることになっておりますが、いかがいたしましょうか。</p> <p>【委員A】 事務局に一任いたします。</p> <p>【事務局】 事務局としましては、条例の検証を進めていく上で、前回、前々回の市民検証委員会委員であり、草加市都市計画マスタープラン外部検討委員会委員を務めるなど、草加市のまちづくりに精通されている後藤委員に座長をお願いしたいと思っております。</p> <p>また、副座長につきましては、同じく前回の市民検証委員会委員であり、自治基本条例の検討段階に関わったNPO法人みんなのまち草の根ネットの会のメンバーでもあった青柳委員に副座長をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。</p> <p>【委員】 ≪異議なし≫</p> <p>【事務局】 ありがとうございます。 それでは後藤委員、青柳委員のお二人は座長、副座長席へのご移動をお願いします。</p> <p>それでは、草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会設置要綱第5条に「座長は会議の議長となります」とありますので、ここからの進行は後藤座長にお願いします。</p> <p>【座長】 それでは、よろしく願いいたします。</p> <p>前回の検証直後にコロナ禍がありました。コロナ禍により、進んだものは進んで、やめるべきものは終わり、時代が少し早まったという評価をしております。</p> <p>当時、この検証では、職員の政策形成能力が大事であるという議論がありましたが、一方で、市民と丁寧につき合うと癒着だと言われる時代でもあるとの議論もありました。そうは言っても、やはり職員が現場に出て政策形成を行うというのが大事で、どういう政策形成能力を養うべきかというのが議論のテーマの一つであったと思います。</p> <p>5年経つとあっという間に世の中も変わります。是非、今回も皆様のお力で、草加市のまちづくりがより良い形で進めば良いと思います。</p> <p>はじめに、会議の公開について、委員の皆様にお諮りいたします。草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会設置要綱の第8条によりこの検証委員会の会議を公開</p>
--	--

	<p>としてよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">《異議なし》</p> <p>【座長】 傍聴人はいらっしゃらないようなので、それでは次に、議事録の署名人について2名指名いたします。本日は、委員名簿の順番で、上原委員、岡村委員を指名いたします。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入ります。</p> <p>・草加市みんなでまちづくり自治基本条例の検証内容・今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします</p> <p>【事務局】 事務局より説明</p> <p>【座長】 事務局から説明がありましたが、皆様から質問やご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>私から申し上げますと、前回の検証で7つの方向性を立てたので、方針の観点から見たときに、実際に世の中でどのような事が起きて、どのような材料があつて、どこが課題なのかを検討する。そのような理解でよろしいでしょうか。</p> <p>【事務局】 そのとおりです。ただ今、庁内の各所属に対して、各所属で行っている取組状況、成果と課題、今後の方向性について照会をかけています。今後、それらの回答を報告書にまとめ、皆様に見ていただき、ご意見をいただこうと考えています。</p> <p>【座長】 改めて、皆様との意識合わせを行いたいと思います。</p> <p>私は専門が都市計画なので、「目の前の川に赤ちゃんが流れてきたらどうするか。」という問題提起があります。多くの方は「飛び込んで助ける」と答えます。一般の人はその答えで良いが、計画を作る人は「誰が流したのか」、「年に何回流れてくるのか」、「いかに流さないか」を考えなければいけません。</p> <p>その後、計画を策定したがやはり流れてしまうということがあれば、管轄の違いなど、制度の壁があつたりします。それに対しては、条文・法律等あらゆるもので対策を打ちましようということだと思つています。</p> <p>自治基本条例はとにかく抽象度が高いものなのでこの条文だけ見て、良かったか悪かったかというのはなかなか議論ができないため、「若い世代がちゃんと草加市で輝けているのだろうか」などの市民の検証視点が設定されています。5年間行われてきた様々な施策を見て、うまくいっていない所があれば、計画の問題なのか、それとも条例の見直しにより動きやすくなるのか等を議論できればと思います。また、7つの視点についてもその視点が正しいということはありません。例えば、スポーツ・子育て・都市計画等それぞれについて、若い人の意見が必要です。このように横串を刺す考え方がこの7つの方向性だと思つています。</p> <p>方向性1から7について、この5年間を省みて、「ここは良かった。」とか、「ここは</p>
--	---

	<p>うまくいかなかった。」とか、「このあたりをもう少し見てみたい。」など、皆様から自由にご意見いただければと思います。</p>
<p>【委員B】</p>	<p>この5年間の中で、市役所内での自治基本条例の位置付けが向上したと感じています。職員の皆様が意識されながら仕事をしていると感じています。まちづくり都市計画の中で、この条例を根拠として位置付けながら、各種、懇談会が行われているのがその一例であると思います。</p> <p>今回の検証の中で、縦軸横軸の組み合わせが具体的に見えてくると、この検証委員会の結果としても示せるのではないかと思います。</p>
<p>【委員C】</p>	<p>まちづくり活動をしていると色々な会議に出ることが多いですが、委員Bの発言のとおり、職員について、以前よりも空気感としては開放的になっていると思います。こちらからの意見・希望に対して、多角的に受け取ってくれています。担当課だけの考えだけでなく、究極的には日本、地球にとって良いものではないかと考えてくれています。</p>
<p>【委員D】</p>	<p>この5年間で何があったかという、新型コロナウイルスをきっかけにして、いらなくなったものが淘汰されました。或いは、本当にやりたいことに向かって直線的に活動される方が増えました。具体的な話をすると、起業したい・何かしたいと考えたら、組織に入って勉強するのではなく、SNS等で同じ考えを持った仲間を集め、小さく始めて動かしていき、大きく巻き込んで結果を出していく若者が増えています。</p> <p>そういった若者を受け入れたい町会・自治会は、こちらから声をかけても我々の組織の運営には協力してくれないという仕組みが発生しています。それは年代的なギャップもあるが、そういった人たちとの合意形成の仕方にも問題があります。そこを柔軟に対応していくことで、まちづくりのきっかけを作ることが出来ると感じています。その仕組み作りが今回の検証で見つかれば良いなと思っています。</p>
<p>【委員A】</p>	<p>草加市は昔ながらのイベントや祭りが多く、最近はその若い世代、新しい住民が入ってきて色々なことをやり始めています。若い人も多種多様であり、方向性も様々です。新しい発想での繋がりであり、これを無理に昔ながらのものにとまとめるのは難しいと思います。昔のものも新しいものも大事にしていくのが良いと思います。まとめていくには、食や音楽などで共通性を持つことが大事です。</p>
<p>【委員E】</p>	<p>この5年間では、新型コロナウイルスによる多大な影響がありました。不登校や困窮は増えていて、福祉は拡充されたが取りこぼされる人もいました。縦割りではなく横串をさすことができると考えています。</p>
<p>【委員F】</p>	<p>みんなでまちづくり会議に参加したことがあり、参加者それぞれが希望を出し合っていました。ただ、本当にそれを実現できるのか疑問に思っていたが、町会などが色々なことを実現していてすごいなと思っていました。</p> <p>ニセコでは市の職員が町に飛び出していて、町の人が職員を頼りにしていました。草加</p>

	<p>市でもみんなでまちづくり会議参加者の多様な意見をどのように、職員が対応していくのが課題だと思います。一方で、みんなでまちづくり課職員を見ていると、庁内の調整を行ってくれていると感じて、希望を感じました。</p> <p>【委員G】</p> <p>自身の専門の話をする、松原団地の聞き取りを10年ほど行っています。本日は7つの方向性の中でも1, 3, 4について言及したいと思います。</p> <p>方向性1については、私のなかで、市から若者が出て行かないで欲しいという考えと、それとは逆に、20代は国内外に関わらずどんどん出ていってほしい、という考え方が拮抗しています。市内に留まってほしい、という考え方としては若者を惹きつけるために、SNSを利用しよう、自転車で走って楽しい町をつくろう、くつろげるベンチを設置しよう、パリポリくんバスのバス停を増やそう等の意見があります。一方、若い世代が出て行っても良いという視点からは、若い人の町を出たいという気持ちはわかるので、一度出て行っても30代・40代になった時に戻ってきてもらえる町であれば良いと思っています。30代・40代の転入者のうち、草加市居住歴がある方がどれだけいるかを調べると今後の方向性や計画もはっきりするのではないのでしょうか。</p> <p>方向性3については、結論的には成功していると感じています。草加市はNPOと市の連携が比較的円滑に取れていて、信頼感もあると思います。多言語支援も、コロナ過を乗り越え、成果を上げています。これからの、より高い目標としては、引きこもりかつ親が障がい者である場合などの複合的な問題やプラスαの困難にどう対応していくのかだと思います。</p> <p>方向性4については、自治会の高齢化という問題があります。今は何とかやっていますが、10年後20年後の継続は困難です。自治会として新しい活動ができていますのか、市としても自治会に入って良かったと思ってもらえる取組が防災以外にもできているのか等を確認したいと思います。</p> <p>【委員H】</p> <p>リノベーションを通して、自分のような主婦がまちづくりに参加できているので、条例は活着していると感じています。また、この検証を通じて意見交換もできればと考えています。</p> <p>【座長】</p> <p>皆様の意見を総括すると、条例制定時に比べると職員の意識が上がっているとの意見が多くありました。ふるさとまちづくり応援基金などの多様な主体に対する様々な支援が出来ていると思います。例えば、リノベーションに市は関与しないという自治体もあるなか、草加市でリノベーション事業が続いているのは、自治基本条例の効果の一つであったと思います。</p> <p>コミュニティにおける人間関係について、今は町会・自治会に入れと言っ、全員が入る時代ではありません。そうではなく、町会・自治会、隣近所、仲の良い人同士の間人間関係をしっかり育てていき、組織には参加しなくても何かあったら助け合おうという関係を育てるのが大事だと思います。</p> <p>政策形成の過程で新しい協議会等を立ち上げようとする、多くが町会・自治会から推薦をお願いしますということが多いです。行政からするとありがたいかもしれないが、町</p>
--	---

	<p>会・自治会しか残らなくなってしまいます。今は、市からすると、自治会しか頼れるところが無いので新しい組織を見つけられれば良いと思います。</p> <p>委員Aからも、若い人も多種多様であり、方向性は様々だとのこともありました。それをそのまま良いのか、もう少し繋がった方が良いと考えるのか。条例では「パートナーシップ」という言葉を用いて、がっちりつながるイメージですが、今後はゆるく「コラボレーション」ということも求められているのかもしれない。</p> <p>20年前は固い市役所をどう動かすか、困った人たちをどうするかという観点だったのが、今は加えてコンヴィヴィアリティ（共愉）、ともに楽しむという考え方も出ている。能登半島の地震後、人が流出していくのを防ぐために「ここに暮らすと楽しい」という視点が出てきた。</p>
【委員F】	<p>ボランティア団体も高齢化により存続が難しいです。また草加市では、町会の婦人会がなくなり、PTAの活動も縮小傾向にあります。今まであった旧態依然のコミュニティがこのままだと無くなっていくのではないかと考えています。新しい組織運営を検討していて、現在は手軽なラインの活用を検討しています。</p>
【委員A】	<p>町会自治会は本庁舎に近いほど加入率が低く、防災訓練ですら「何のためにやるのか」となる。90歳のお祝いも町会では把握しておらず名簿をもらわないとできない。</p> <p>若い人が組織に入っていない。30代・40代で戻ってきてくれるのは大変ありがたいことです。</p>
【座長】	<p>結婚してもしていなくても、キャリア的にも帰ってきやすいところが理想です。</p>
【委員G】	<p>確かに、仕事を持っていると実家や親戚、特に実母の協力がないと生活を回せないのが現実としてあります。実母の近くに転居するのが重要で、私の周りのキャリアを回せている人を見ていると、祖父母が地域に根を張っていると帰っていきやすい傾向があると思います。高齢者の方が頑張って町会・自治会をやってくれているとそれだけでもありがたいです。性別役割分業の問題はあるにしても、いったん草加市を出たひとが戻ってこられる環境、草加市はそれを実現できるポテンシャルを持っていると思います。</p>
【委員B】	<p>コミュニティの問題に戻る気がします。血縁や地縁関係にこだわらず、関係を築けることが求められていると思います。婦人会にしても、PTAにしても、今までの形を継承している団体は成り立たなくなっていると思います。例えば、町の中でマルシェ開催など、新しい繋がりの中で新しい活動を模索しているところが生き生きしていると感じます。</p>
【座長】	<p>このお話は方向性で言うと4、5になると思います。今は町会・自治会に入らなくても情報が届く良い社会になったという評価もできます。一方で、町会・自治会や地域との接点が切れてしまうと、いざ頼れるのは家族しかいなくなってしまうという問題もあります。自分が元気な時は町会・自治会に入らなくても良いと思うけど、弱ったり、一人になった時に、町会・自治会の人声がかけられるとありがたいということもあると思いま</p>

<p>【委員F】</p>	<p>す。</p> <p>人間は弱った時や年を取った時に、自分の人生について相談できる人がいるかどうか、これまでの人生の過ごし方の結果であると思います。元気な時に、どれだけそういった人間関係を築くことが出来たかが大事です。私はPTA活動が原点だと思っていて、その時の友人が宝となっています。</p>
<p>【座長】</p>	<p>今回の検証では、事業評価をするだけではなく、こうすればよかったというようなアイデアと、それに対して条例に問題があるのかどうかということについて話し合えれば良いなと思います。</p>
<p>【委員B】</p>	<p>みんなでまちづくり会議の在り方については、大きい課題となっています。どのようにみんなでまちづくり会議をすすめていくべきか、みんなでまちづくり会議の内容をどのように市政に反映していくか等です。条例にある「だれもが幸せなまちづくり」については、だれかの幸せがだれかの不利益になるかもしれないという命題も併せ持ちます。言いたいことを言いたくだけ言う会議ではない別の会議の在り方を提案してもいいのかなと思っています。例えば、市の中の人口統計を反映してミニ草加として開催する等です。また、市がやりすぎているところもあるように思います。みんなでまちづくり会議でやりたかったことは各課でやっているが、市民側の主権者教育的なものがもう少し必要とも思います。意見を言うだけでなく、主体的にまちづくりに関わる会議になれば良いと思います。</p> <p>具体的な方法は、考えていますが悩んでいるところです。この検証委員会でもぜひ、話し合っていきたいと思っています。</p>
<p>【座長】</p>	<p>私は、実は草加市はやりすぎている部分もあるかなと思います。例えば、総合振興計画と都市計画マスタープランを一緒に見直そうとか、地域福祉計画でも色々な委員を入れて議論していたりします。みんなでまちづくり会議でやらなければいけないと思っていたことをやってくれていて素晴らしいなと思います。</p> <p>是非、みんなでまちづくり会議についても議論していきたいと思っています。</p>

署名委員 上原 美香

署名委員 岡村 圭子
